

令和5年度標準学力検査 教研式NRTの検査結果について

令和5年6月19日(月)、第1学年及び第2学年を対象に実施した令和5年度標準学力検査 教研式NRTの検査結果が届きました。

本検査は、学習指導要領に準拠し、各教科の「内容」に合わせた領域で構成されており、全国の学力水準と比較して相対的に学力を把握するためのものです。本校生徒の学力を把握・分析し、今後の授業改善や生徒への教育指導の充実に役立てていきます。

【第1学年】各教科の大領域別正答率(%)の比較

教科	内容	松賀中	全国	全国比
国語	話すこと・聞くこと	65.8	62.0	106
	書くこと	61.6	61.4	100
	読むこと	63.2	60.6	104
数学	数と式	67.5	65.5	103
	図形	51.8	53.1	98
	関数	60.3	58.6	103
	データの活用	58.8	57.5	102
理科	エネルギー	64.5	65.8	98
	粒子	52.6	50.0	105
	生命	75.3	74.1	102
	地球	58.2	59.2	98

【第2学年】各教科の大領域別正答率(%)の比較

教科	内容	松賀中	全国	全国比
国語	話すこと・聞くこと	63.3	62.9	101
	書くこと	62.7	62.2	101
	読むこと	50.1	50.0	100
数学	数と式	59.7	59.0	101
	図形	56.2	52.4	107
	関数	46.4	48.3	96
	データの活用	56.8	55.7	102
理科	身近な物理現象	56.3	61.7	91
	身の回りの物質	59.9	64.1	93
	いろいろな生物とその共通点	57.7	64.3	90
	大地の成り立ちと変化	49.2	54.2	91

【第1学年】

教科	結果の分析
国語	大領域の、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことはいずれも全国平均と同程度であり概ね満足できる。しかし、中領域別に細かく見ると、書くことのうち「送り仮名を含む漢字の書き」が全国平均をおよそ5ポイント、読むことのうち「考えや感想をまとめ伝え合う」が全国平均を2ポイント下回っており今後の課題である。
数学	大領域の、数と式、関数、データの活用はいずれも全国平均と同程度であり概ね満足できる。しかし、図形については全国平均を若干下回っている。中領域別に細かく見ると、図形のうち「平面図形」「立体図形」が全国平均を1ポイント下回っており今後の課題である。
理科	大領域の、粒子、生命はいずれも全国平均と同程度であり概ね満足できる。しかし、エネルギー、地球については全国平均を若干下回っている。中領域別に細かく見ると、エネルギーのうち「電気の働きと利用」「てこの規則性」が、生命の「植物の体のつくりと成長」が全国平均をおよそ2ポイント下回っている。また、地球の「月と太陽」が全国平均を8ポイント下回っており、いずれも今後の課題である。

【第2学年】

教科	結果の分析
国語	大領域の、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことはいずれも全国平均と同程度であり概ね満足できる。しかし、中領域別に細かく見ると、書くことのうち「情報を選び構成を考えて話す」「目的に応じて話の内容をとらえる」「工夫して話し、感想や考えを持つ」が全国平均を若干下回っている。また、書くことのうち「漢字の書き」、読むことのうち「要点をとらえ内容を解釈する」「考えや感想をまとめ伝え合う」が全国平均を2～5ポイント下回っており、いずれも今後の課題である。
数学	大領域の、数と式、関数、データの活用はいずれも全国平均と同程度であり概ね満足できる。しかし、関数については全国平均を若干下回っている。中領域別に細かく見ると、数と式のうち「方程式」が、関数のうち「比例と反比例」が全国平均を1～3ポイント下回っており、今後の課題である。
理科	大領域の全ての内容が全国平均を5ポイント程度下回っており今後の課題である。中領域別に細かく見ると、身近な物理現象のうち「光と音」が、身の回りの物質のうち「状態変化」「生物の観察」「動物のなかま」が、大地の成り立ちと変化のうち「地震」が全国平均を6～11ポイント下回っており、いずれも今後の課題である。